

(P1の続き)

危険はありません。言ってみればそれは動物園で訓練を積んだ飼育員が猛獣を扱うのと同じです。危険なのはサバンナで猛獣に出くわす無防備な人々です。同じように危険な目に遭っているのはエボラ流行地域に暮らす人々であり、彼ら彼女らを助けるために世界中からその地域にやって来た人々です。その人々を守るためには十分な基礎研究を積み重ね、予防法や治療法を開発することが必要です。本センターのBSL-4施設がそういう重要な役目を果たせるよう、地域住民の方々に安心してもらえる設備を整え訓練を重ねています。皆様のご理解とご協力、そして応援を心からお願い申し上げます。



リベリアの首都モンロビアでWHOが運営していたエボラ治療ユニット:勤務前にスタッフみんなの無事を祈る朝礼の光景。この奥は危険度の高い区域で、広い一つのスペースに最大50人のエボラ患者が治療を受けていた。(東北大学・押谷仁教授提供)

市民公開講座の開催

令和6年3月16日(土)、市民公開講座「感染症と免疫学～感染症克服のための免疫学研究の役割は?」(講師:川崎拓実准教授)を開催し、会場・オンライン合わせて約55名の参加がありました。講演では、ウイルス感染から体を守る仕組みや、各種免疫細胞についてそれぞれの働きや特性などをわかりやすく解説し、インフルエンザウイルス感染に対する免疫反応についての研究成果等、最新の研究についても紹介しました。質疑応答では、免疫細胞の中でも特に肺胞マクロファージ、キラーT細胞、樹状細胞の特異的な働きについての質問がありました。会場は高校生の参加者が多く、講師が免疫学を研究するに至った経緯や、日々の研究活動のエピソードについても興味を持たれたようでした。終了後のアンケートでは、日本だけでなく世界に貢献できるよう感染症の予防法や治療法の開発を期待するなどの声が寄せられました。

高度感染症研究センターでは、今後も感染症に関する市民公開講座を開催予定です。皆様のご参加をお待ちしています。



お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学高度感染症研究センター

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

フリーダイヤル 0120-095-819

より詳しくお知りになりたい場合は、ホームページをご覧ください。

ファックス 095-800-4301

ホームページアドレス <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

